

=====

RIKKYO UNIVERSITY

VOLUNTEER CENTER MAIL MAGAZINE

2020.07.17

=====

この度7月の記録的な豪雨により被害を受けられた九州・岐阜・長野・島根の皆様
に、心からお見舞いを申し上げます。そして一刻も早く被災者の方々の不安が解消
し、復旧が進みますよう心からお祈りしております。

今こういう状況のなか、非常に大変な思いをされている方が大勢います。心を痛め
ていたり、歯がゆい思いをしている皆さんもいるかと思いますが、コロナ禍の今は現
地に赴く以外の方法で、今自分たちにできることを模索していきましょう。

自然災害には抗うことはできません。しかしコロナに打ち克つためには、まずは体
力・免疫力作りです。それから気のおける友だちや仲間と繋がることで、心の栄養も
十分に養ってください。

春学期末試験期間が終わると夏休みです。今年は楽しい計画はちょっとお預けの皆
さんもあるかもしれませんが、大切な人、会いたい人にぜひ手紙を書いてみてはど
うでしょうか。アナログなやりとりも、今だからこそ嬉しいものだと思います。



CONTENTS

- (1) ボランティアセンターからのお知らせ
- (2) Online Welcome Weekのご報告
- (3) ことば・バトン ～先輩から新入生・在校生のみなさんへ～
- (4) 陸前高田サテライト・東日本大震災復興支援関連情報

=====

(1) ボランティアセンターからのお知らせ

=====

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在ボランティアの紹介・広報活動を中止しております。

個人でボランティア活動に参加する場合は、いま行なうことが本当に必要かどうかを慎重に検討し、自己責任の上行動してください。その上で活動をする場合も、活動先が各自治体等で示している活動再開指針を遵守しているかどうかを必ず確認した上で参加するようにしてください。

首都圏の感染者の多数いる地域から人が行くことが持つ危険性について、十分に考えた上で慎重に判断してください。

以上について不明な点や、活動についての相談があれば、遠慮なくボランティアセンターまでお問い合わせください。

(2) Online Welcome Week のご報告

Online Welcome Week

7回にわたり昼休みに開催しました Online Welcome Week が7月7日で終了しました。最終回は、点字サークルの「点々虫」と子どもサークル「Bambino」の皆さん。活動の楽しさや、活動から学んだことを生き生きと話してくれました。

今年はキャンパスで直接新入生とサークルの皆さんを繋ぐことはできませんでしたが、7回に分けてじっくり活動の話聞くことができたので、私たちボランティアセンタースタッフも勉強になることが沢山ありました。

ボランティアサークルの皆さん、ご協力本当にありがとうございました！！

1. 活動紹介

「Bambino」

- ・4限後から新座キャンパス付近の学童で活動（小1～4年生の子どもと遊ぶ、学習支援）、平日のみの活動（自分の都合のいい日の参加でOK）
- ・新歓ピクニックや縁日、ドッチボール大会、学際などイベントも多数。
- ・メンバーは8人と少人数（2年生6名、3年生2名）
- ・現在はInstagram(bambino. _ . 2020)でメンバーを募集中、Gmailで質問もOK。

「点々虫の会」

- ・週に1度各キャンパスでそれぞれ活動
（自分の所属しているキャンパスのみの活動でOK）
- ・視覚しょうがい者に関する事、点字や点訳などを行う。（点字を手で読む練習なども行う）昨年は点字の路線図や、資料の点訳などを行った。今後は、第一食堂の点字メニュー

一作りをしていきたい。

- ・ Twitter (@64tenten) と Gmail で連絡可能、入部募集中。

【Bambino】へ質問

- ・ Q. 子ども達と過ごすうえで気を付けていることは？

言葉遣いを丁寧にすることは必要。個人的に気を付けていることは、ただ一緒に楽しく遊ぶだけでなく、ちゃんと一人の大人として甘やかすのではなく指摘もすること。

子どもの目線になってみる。身長差があるので、立ったまま話すのと子ども目線で話すのではだいぶ違う。

【点々虫の会】へ質問

- ・ Q. SNS で食堂のバリアフリー化になる前はどんな感じ？

点字がないので誰かと一緒に行き購入していたが、「1人でも買いたい・外部の視覚しょうがい者の方にも利用してほしい」という思い、活動をしている。

- ・ Q. 初めての人にはどんな風に点字を習っていくのか？

入部後に渡す会員証に自分の名前や所属が点字で打たれているので、まずはそれを見ながら点字を覚えていく。先輩に覚え方などを教えてもらいながら、だんだん読めるようになったら打ってみる、という進め方をしている。

- ・ Q. サークルを選んだきっかけは？

【Bambino】

- ・ もともとボランティアに興味があり、ボランティアオリエンテーションに参加しバンビーノを知った。平日の活動・子どもたちと遊べる事が魅力的だったため。先輩が優しくあったのも理由の1つ。ボランティアは大掛かりなものと想像していたが、気軽に参加できるのが良いなと思った。

【点々虫の会】

- ・ 点字は扱っていないが自分も視覚しょうがいがあり高校は盲学校に通っていた。その高校の先輩から活動に誘われたことと、点字に興味があったので参加した。
- ・ もともと点字に興味があった。点々虫の会で点字を学べると知り、先輩も優しく雰囲気良かったため。

- ・ Q. サークル活動のやりがいは？

【Bambino】

自分たちが考えた企画で子どもたちが笑顔になって遊んでくれること。私の名前を覚え

てくれることも嬉しい。子ども達に居場所を与えたいという気持ちもあるが、学童が自分の居場所にもなっている。

【点々虫の会】

点字が書ける・読めるようになったことが1番のやりがい。掲示や路線図が完成した時にもやりがいを感じる。普段、視覚しょうがい者の方がどのように過ごしているのかを身近に感じる事が出来る。(教科書を読ませてもらったり、授業で使用するノート、PCのようなものを見せてもらえたり)

・Q. 視聴者への一言メッセージ

【Bambino】

8人で少人数だからこそ、皆で仲良くできる。自分の意見も伝えやすく、採用されやすいのも魅力。子ども達からパワーをもらえて笑顔になれる素敵な活動なので、是非SNSをチェックしてほしい。

【点々虫の会】

少人数で雰囲気も良く楽しく活動している。点字を学び始めると色々新たな発見もあり、楽しいので是非興味がある方は連絡してほしい。

4. サークル同士の質問

Bambino (小國) →点々虫の会への質問

Q. 全くの点字初心者は読めるようになるまでどれくらいの時間がかかるのか?

A. 個人差はあるが、自分は半年くらいだったと思う。大方内容が読めるのは2~3カ月ほど。

(3) ことば・バトン ~ 先輩から新入生・在校生のみなさんへ ~

今回はコミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科4年生の高山賢太郎君です。

今回は「大学生活のこと」。そして次回は新入生の皆さんに「伝えたいこと」をまとめてもらいました。

高山賢太郎【熊本県出身/コミュニティ政策学科】

熊本県出身。高3時の熊本地震の経験を胸に、週6日の体育会活動と並行して現地避難所での交流活動・各地での「伝える支援」としての講話等を実施。大学2年時、ポール・ラッシュ博士記念奨学金を受賞し、地元熊本で被災した小学生を対象にサッカー教室・食事交流会を主催した。

その後、学部長賞を受賞。昨年は池袋・新座各キャンパスや熊本県内中学校で、自身の活動を伝える機会もあり、今年度、校友会奨学金を受賞。

【大学生生活の事】

活動の事は、立教の HP 等を見て頂ければ幸いです。

「ポール・ラッシュ博士記念奨学金」は、立教生で一步を踏み出したい人にはうってつけのものだと思います。奉仕の精神を重んじる立教大学だからこそこの制度だと思いますし、一步を踏み出した、何かを変えたい人は、ぜひチャレンジしてほしいです。僕が保証します！！

総長やチャブレン長など普段お会いできない方々と食事しながらお話しできたのもいい思い出です。何より、素晴らしい大学スタッフ方の後押しも受けることができ、自分の学びの手助けもしてくださっています！！

次に、コロナが流行する前の大学 3 年目までの日常生活のお話を気軽に綴らせて頂ければと思います。(笑)

普段は毎日体育会サッカー部として、座キャンから 5-7km 程の体育施設で練習しています。後は結構図書館とかにも行って、日記など各項目で毎日 7 冊ほどノートをつけているのでそれを書いたり、本読んだりしています。(笑) 結構アナログだと思われそうですが、書くことで自分を整理できますし、オススメです。(笑)

一部ご紹介しますと、サッカーノートも小さい頃から付けていまして、今は「自己管理ノート」という名前にしています。毎日朝昼晩の体重測定・食事・練習内容など記入し、見直すようにしています。現在は減量中です！！(笑) 1 日の行動記録を時間ごとにまとめて、もっとこういう時間を過ごせたのでは？などと日々考え行動に繋げています。結構、スケジュール管理能力は、ついてきたかなと思います。

自分をアップデートさせるために、年齢問わず色々な方と食事に行きます。人と会って話をすることで、多種多様な刺激を受けて頑張らねばといつも思っています。体育会活動をしながらも、時間を管理する事で、このような機会にも恵まれているので大学生生活は非常に有意義です。

首都・東京に出てきてよかったなと思っています。立教最高！！(笑)



(4) 陸前高田サテライト・東日本大震災復興支援関連情報

みなさん、こんにちは！陸前高田サテライト事務局です。

立教大学では2011年の東日本大震災以降、岩手県陸前高田市を中心に東北各地で復興支援活動や交流活動を継続しています。現在は、陸前高田市ご協力のもと、岩手大学の方々と共に同市の地域課題解決に貢献できるようなプログラムにも取り組んでいます。

陸前高田市と立教大学の歩みを少しずつ振り返りながら、学生の皆さんが陸前高田を訪れることが出来るプログラムやスタッフによる耳ヨリ情報を掲載していきます！

★立教大学と陸前高田～Rの物語 vol.8 立教野球教室@陸前高田の開始【後編】

2012年7月に開始した立教野球教室。教室終了後にご協力くださった現地の方々にお送りした振り返り文集に野球部長の前田一男先生が寄稿された文章を、前回に引き続き、ご紹介します。

前田一男先生（野球部長、文学部教育学科）

「野球を通じて未来へー陸前高田市における野球部『野球教室』ー」（後編）

翌日、目の前にはどこにでもいる野球少年少女がいた。上手な子もいれば、苦手な子もいた。個別に指導されることで上手になる子もいれば、なかなか課題が克服できない子もいた。友達にちょっかいをかける子もいれば、外野守備練習で泣き出してしまった子もいた。部員たちは、今までの経験を動員しながら、熱心に教えている。デ



モンストラクションの投球をした部員は、帰り際サインをねだられるヒーローとなった。修復中の体育館の屋根に当たるホームランを打った部員も、子どもたちの歓声に乗せられて、これまたヒーローのように右手を高々とあげて喜んだ。子どもたちのロングティーバッティングも、フルスウィングしながら実に楽しそうだ。野球教室に抵抗感を持ちながら参加したという部員も、そこそこで笑顔を振りまいている。

しかし、その背景にあるものは、どこにでもいる野球少年少女ではなかった。昨日の重苦しい感触と今日の心地よい感覚とのギャップを部員たちは直感していたはずだ。それは、野球教室を通して見えてきたギャップであり、野球をしている子どもたちにも、それを見守る大人たちにも、そして野球教室に参加している部員たちにも、位相を異にしながらもそれぞれの心の中で生まれていたものではなかっただろうか。

過去と現在とのギャップを埋めることは、やはり不可能だ。それをとにかく受け止めつつ、そこから勇気を持って出発しなければならないとすれば、その手立てにはどのようなものがあるのだろうか。そのささやかなヒントが野球教室にあったように思う。子どもという未来に生きる希望の存在が野球を楽しんでいるその姿は、この地で再び現在と未来とが結びうる可能性を予感させてくれたからだ。目の前で楽しんでいる子どもたちの姿に、彼ら彼女らの大人となった未来の姿を重ね合わせた大人も少なからずいたのではないだろうか。未来への希望があるから、復興へのエネルギーを沸かせることができる。子どもが笑顔で野球をしている時、過去と現在とのギャップが、現在から未来への希望の懸け橋に変わった。その瞬間に立ち会えたことは幸이었다。

野球教室がどれほどお役にたてたかわからない。しかし、野球という共通の楽しみが、野球部員と陸前高田の子ども達とを繋いでくれた。そこには、野球部という抽象的な存在ではなく、背番号何番の大学生と一人ひとりの小学生との個別の関係が生まれていた。社会貢献といって、それは野球を通じてできる「人」と「人」との結びつきであり、そこから生まれるお互いの発見なのだと思う。その場、その人に触れ合えることは、自分の生き方を再確認する機会になり、社会のあり方を見つめ直す機会になった。今回の野球教室は、やはり学びの場だった。



★スタッフが出会った、たかたのことば～「Rのことば」村上知幸氏（高田野球スポーツ少年団監督）

今回は「Rのことば」から高田野球スポーツ少年団監督（当時）の村上知幸さんの言葉をご紹介します。村上さんは現在に至るまで立教野球教室開催にご協力くださっています。

Rのことば 村上知幸氏

<https://youtu.be/DXC1oFXBhQ8>



※「Rのことば」とは

陸前高田市の人びとが日常や復興への思い、将来の夢を語る映像集。2012年から13年にかけて佐藤一彦教授（現代心理学部映像身体学科）が監修、同学科の学生たちも制作に携

りました。

*お問合せ 立教大学陸前高田サテライト事務局 rrs@rikkyo.ac.jp

*陸前高田サテライトの取り組みを発信中

公式 Instagram (@rikkyo_rrs) https://www.instagram.com/rikkyo_rrs/

(編集：ボランティアコーディネーター／茅)

立教大学ボランティアセンター

◎池袋キャンパス

場所：5号館1階

開室時間：月～金 9：00～17：00

土曜日 9：00～12：30

◎新座キャンパス

場所：7号館2階

開室時間：月～金 9：00～17：00

土曜日 9：00～12：30

※新型コロナウイルス感染拡大のため6月1日以降は短縮開室しております。

月～金 10:30～15:30、土曜日 10:30～12:30

但し、両キャンパスとも原則として入構制限となっています。

◎ホームページ

http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/extracurricular_activities/volunteer.html

◎メールアドレス

volunteer@rikkyo.ac.jp

◎Facebook

https://www.facebook.com/立教大学ボランティアセンター-537537806439867/?ref=aymt_homepage_panel

◎TwitterID：@rikkyo_volucen

http://twitter.com/rikkyo_volucen/

◎Instagram

https://www.instagram.com/rikkyo_vc/?hl=ja

配信停止を希望の場合は以下の Google Form を送信してください。

<https://forms.gle/xFtZVvd94Je1nJwm7>

